

## 協力校としての取組

五泉市立愛宕小学校

### 1 研究主題

確かな読みの力を育てる指導の工夫（2年次）  
～言語活動を通して自分の考えを交流する児童の育成～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 教育目標の具現から（グランドデザイン2016より）

当校の教育目標は、『進んで 学び 鍛え 助け合う子』であり、『進んで学習する子』『協力して行動する子』『めあてをもって運動する子』の育成を目指している。この目標には、めあてをしっかりと持ち、主体的に課題を解決し、自らの力を伸ばしていこうとする積極的な態度や能力を育成するという願いが込められている。したがって、教育目標具現のためには主体的に取り組む子どもの育成を長期的な教育課題としてとらえ、段階的にその資質、能力の伸長を図っていく必要がある。学習指導要領国語科の目標に「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を育成する」とあり、適切に表現する能力や正確に理解する能力を高めることが求められている。国語の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自ら進んで文章を読み、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする子どもの育成を目指していく。

#### (2) 児童の実態から

本校は24年度に統合し、新設5年目の学校である。児童は明るく、与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。しかし実際の授業では、考えがなかなかまとまらない、考えを持っていてもどう話していいかわからない、という姿が見られた。そのため、ワークシートで自分の考えを明確に持たせたり、伝え合いの場を工夫したりしてきた。それらの手立てにより、グループの中や全体に向けて自信を持って発表したり説明したりする児童が増えてきつつある。

昨年度のNRT学力テストの結果では、全学年が全ての領域について全国比（＝100）を上回り、今までの研究の成果が現れている。一方、「読むこと」領域において、学年間の差が大きい傾向が見られた。特に、目的に応じて言葉に着目しながら文章を正確に読み取ることに弱さが見られる。また、他の領域の結果から、問題の意図を正確に読みとって答えることを苦手とする姿も見られた。「読む力」を高めることは、説明的・文学的な文章の内容を正確にとらえたり、自分の考えを適切に表現したりする姿の具現につながる。

#### (3) これまでの取組の課題から

当校では過去4年間国語を研究教科に取り上げ、かかわり合いのあり方について研究を進めてきた。そして、考えをしっかりとらせること、グループや全体で伝え合うことや考えを広げる方法について一定の成果を得ることができた。

しかし教師の支援、手立ての工夫により、考えをしっかりとって学習に参加できる子は増えてきたものの、主体的に自ら考え、思いを発信していくという点ではまだ弱さが見られる。子どもが主体的に課題解決に向かい、自分の思いを進んで表現できるような課題や場の設定を一層工夫していかなければならない。また、学習の基礎となる話し方、聞き方については向上が見られる一方で、読む力をより一層高めていきたい。

これらのことから、今までの研究を通して付いてきたかかわり合いの力を、「読むこと」の領域で生かし、読む力を高めていく授業のあり方を探りたい。

### 3 昨年度までの研究の成果と課題

昨年度、「確かな読みの力を育てる指導の工夫」を研究主題に掲げ、言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力の育成を目指してきた。研究内容として、下記の2つの手立てにより研究を進めてきた。

ア 学習活動を工夫し、目的に応じて文章を読み取らせる。

イ 言葉や文章を根拠に考えさせ、正しく読み取らせる。

その結果、次のような点が成果と課題として明らかになった。

#### (1) 成果

ア 学習活動を工夫し、目的に応じて文章を読み取らせる。

- ・文章を読んで得た知識や情報をあらすじやクイズ形式にまとめたり、身近な人に表現したりする活動を設定したことで、意欲をもちながら学習を進めさせることができた。
- ・教材文で身につけた読みの力を基に他の物語や図鑑などを読み、読書郵便やリーフレット、本の形式にまとめる活動を設定したことで、目的を持って文章を読み取らせることができた。

イ 言葉や文章を根拠に考えさせ、正しく読み取らせる。

- ・場面の様子が伝わるように音読させたり、登場人物の行動を動作化して表現させたりすることで、場面の様子や登場人物の心情を読み取らせることができた。
- ・登場人物の行動を場面ごとにまとめる学習課題を設定したり、対比的な表現や比喻表現、主題にかかわる言葉に着目させたりする発問や支援を行うことで、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を読み取らせることができた。
- ・登場人物の心情の変化を心情曲線に表したり、写真や挿絵に着目させたりすることで、登場人物の心情の変化と場面の様子を関連させてとらえさせることができた。
- ・写真の提示順について文章を基に考えさせたり、工夫したワークシートを使用したりすることで、筆者の説明の工夫（事例の提示順・対比表現など）に気付かせることができた。
- ・文の役割を色分けして分類させたり、キーワードを探し出す段落を指定したりすることで、形式段落の文章構成をつかませることができた。

#### (2) 課題

- ・登場人物の相互関係やその変化、場面の様子、情景描写などに着目させ、主題に迫る読み取らせ方を工夫することが大切である。
- ・各段落の読み取りと理解だけに重点を置いて読み取らせるだけでなく、段落相互の関係や事実と意見との関係にも着目させて読み取らせることが大切である。そのためには、指導事項の重点化を図る必要がある。
- ・お互いの考えを交流させるために、話し合いの目的と進め方を示し見通しをもたせて意見交流させたり、拡大したワークシートやホワイトボード等を活用し意見をまとめさせたりする手立てが必要である。

### 4 研究主題の意図

本研究主題の「確かな読みの力」を以下の4点でとらえることとする。

①目的や叙述に即して正確に読み取る力

②内容を正確に理解する力

③文章構成を正確に読み取る力

④目的や必要に応じて適切に表現する力

これらの力を付けるために、学習指導要領国語科の「各学年における『C読むこと』の指導事項」に示されている指導事項を通して読む力を高めていく。

学習指導要領国語科 各学年における「C読むこと」の指導事項（抜粋）

	1 学年及び第 2 学年	3 学年及び第 4 学年	5 学年及び第 6 学年
説明的な文章の解釈に関する指導事項	イ 時間的な順序や事柄の順番などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	イ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読んだりすること。
文学的な文章の解釈に関する指導事項	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	ウ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

文章の解釈とは、文章に書かれたことを理解し、意味付けることである。具体的には、文学的な文章や説明的な文章の内容や表現を、想像、分析、比較、推論などによって相互に関連付けて読むことである。本研究では、読み手の目的や意図に応じて、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、叙述に即して論理的に考え、文章を正しく読み取る子どもの育成を目指す。

5 今年度目指す力

◎言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力

6 研究仮説

読む目的を明確にした言語活動を設定し、考えのたせ方や交流のさせ方を工夫することで、言葉に着目し叙述に即して正しく文章を読み取る力を育成することができる。

7 研究内容と方法

(1) 研究教科 国語

(2) 研究内容

○読む目的を明確にした言語活動の工夫

- ・ 単元構成の工夫
- ・ 学習課題や発問の工夫

- 言葉や文章に着目させ、自分の考えをもたせる工夫
  - ・視覚化の工夫
  - ・表現方法の工夫
- 言葉や文章を根拠として、考えを交流させる工夫
  - ・対話の工夫
  - ・意見をまとめる工夫

### (3) 授業研究の進め方

- ・各学年部を研究組織の基盤として、研究授業を中心に校内研究に取り組む。各学級1回の研究授業を実施する。
- ・研究授業は、学年で説明的文章教材と文学的文章教材それぞれを行う。ひまわり学級、級外職員はこれによらない。
- ・研究授業は、種類を全体研と学年部研に分ける。全体研は全職員が参観し、全体で協議会を行う。部内研は原則として同一学年部の職員が参加することとする。
- ・授業公開に先立ち、指導案検討会を開き、研究授業の視点を明確にする。(研究授業の2週間前に、研究授業指導案の検討を行う。全体研は、1週間前には指導案を指導者に送付する)
- ・授業者は、全体検討会前日までに学習指導案を配付し、検討事項を明らかにしておく。
- ・研究授業終了後に研究協議会を実施し、授業の視点をもとに研究内容の有効性を協議する。
- ・公開した授業は、学習指導案・資料・考察(成果と課題)を研究紀要としてまとめる。

## 8 研究の成果と今後の課題

「確かな読みの力を育てる指導の工夫」を研究主題に掲げ、言語活動を通して自分の考えを交流する児童の育成を目指して校内研究に取り組んできた。これまでの授業実践から、次のような成果や課題が明らかになった。

### (1) 研究の成果について

#### ① 「読む目的を明確にした言語活動の工夫」について

文章を正確に理解する「読む力」を育成するために、下記の三点を工夫した実践を重ねてきた。

- ・単元を通して読む目的を明確にした学習活動を位置付けること。
- ・単元の目標に応じた言語活動を位置づけた単元構成を工夫すること。
- ・単元の目標を段階的に達成することのできる学習課題を設定すること。

単元導入時に、教師が自作したカードやクイズを提示し、単元のゴールを具体的に示したことで、児童の興味関心を高めたり、教材文を読む目的をもたせたりすることができた。また、その際、単元のゴールに到達するまでの学習課題を設定することにより、児童に学習の見通しをもたせることができた。

#### ② 「言葉や文章に着目させ、自分の考えをもたせる工夫」について

課題解決のためには、児童が文章を読み、自分の考えをもって授業に参加することが重要である。課題に対して、児童が自分の考えをもつことができるような手立てについて実践を重ねてきた。

説明文では、児童に言葉や文に着目させる手立てとして下記の手立てで行った。

- ・それぞれの段落で説明していることを写真(絵)と文で結び付けさせる。
- ・それぞれの段落で説明していることを見出しカードを使って当てはめさせる。
- ・中心文やキーワード、着目させたい言葉などに、サイドラインを引いたり、□で囲ませ

たりする。

- ・中の段落のいくつかを除き、リライトした段落を提示する。
- ・本文と教師が作成したしかけ文とを比較させる。

これらの手立てにより、接続語やキーワード、文末表現、事例の提示順などを意識しながら文章を読む児童の姿が見られた。また、筆者の説明の工夫や、問いかけの言葉や文の効果などを感じ取らせることができた。これらの手立ては、児童が本時の課題を明確にすると共に、教材文に着目して考えることができる手立てであったと言える。

物語文では、登場人物の行動や心情、場面の様子などを読み取らせるために下記の手立てで行った。

- ・様子を表す言葉に着目させるために、教科書の挿絵や絵本を提示する。
- ・場面の様子を劇により動作化し、場面の様子や登場人物の心情をとらえさせる。
- ・登場人物の心情を想像するために、登場人物の行動を児童自身の経験とつなげて考えさせる。

これらの手立てにより、教材文の心情を表す会話や場面の移り変わりに着目しながら読む姿が見られた。場面の様子を視覚的にとらえさせることや心情を経験と結びつけ教材文の言葉に着目して考えさせることは、児童に考えをもたせる手立てとして有効であった。

また、作品の主題や作者の思いや願いなどに迫るために下記の手立ても行われた。

- ・教材文と同じ作者の他作品を読ませ、登場人物を類比・対比させる。
- ・作者が伝えたいことを捉えさせるために、登場人物の人柄を叙述から読み取らせる。

これらの手立てにより、児童に登場人物を通して作品の主題を捉えさせたり、作者の思いに気付かせたりすることができた。

### ③ 「言葉や文章を根拠として、考えを交流させる工夫」について

交流活動を工夫し、児童が自分の読みを確かめたり、振り返って考えたりする学習を進めてきた。このような学習を促す工夫として下記の手立てを行った。

- ・児童がもった考えをペアやグループで話し合わせる。
- ・全体での話し合いで考えの共通点や相違点を板書により視覚化して示す。

これらの手立てにより、自分と共通の考えをもつ友だちの意見を聞くことで自分の考えの確かさを実感させることができた。また、自分と異なる意見を聞くことで、再度自分の考えを見直す姿が見られた。自分の意見の根拠や理由を挙げて話し合わせたり、全体での話し合いで出た複数の意見を教師がつなげたり分類・整理しまとめたりすることは、交流をうながす手立てとして有効であった。

## (2) 研究の課題について

授業後の協議会では、主に研究内容の「(2) 言葉や文章に着目させ、自分の考えをもたせる工夫」「(3) 言葉や文章を根拠して、考えを交流させる工夫」について協議を行ってきた。

(2)の「考えをもたせる工夫」の課題として、課題解決の見通しがもてないために自分の考えを十分に形成することができなかった児童がいたことが挙げられる。前時までの教材文の読み取りでどの程度まで理解しているのかという児童の学習状況の把握が大切である。また、そのような児童が考えをもつために適切な支援を行う必要がある。

(3)の「考えを交流させる工夫」の課題として、交流の場（ペア・グループ・全体での話し合い）で、児童がそれぞれの考えを述べるだけに止まってしまい、課題解決に向けた話し合いとならない場合もあったことが挙げられる。

課題解決に向けた交流活動を組織するためには、話し合いの場において、児童に話し合う目的を理解させ、話し合う必然性をもたせることが大切である。また、話し合い活動に入る前に、話し合う内容や話し合う観点を具体的に示すことも重要である。これらの手立てを講じることで、児童同士がお互いの考えを比較・検討し、よりよい考えに気付く交流の姿の具現につながると考

える。これらのことを踏まえ、交流活動では下記のことについて今後検討していく必要がある。

- ・話し合いの目的や必然性のもたせ方（何のために話し合うのか）
- ・比較・検討事項の意識化（何を話し合うのか）

単元の第2次の授業における学習活動は、研究内容「（1）読む目的を明確にした言語活動の工夫」に大きく関わっている。単元のゴールに至るまでの学習課題が適切に設定されているか配慮しながら研修を進めていく必要がある。

### 3 まとめ

今年度は、「確かな読みの力を育てる指導の工夫」を研究主題として、「言語活動を通して自分の考えを交流する児童の育成」を目指して校内研究を進めてきた。

このことによって、教材文で身に付けた「読む力」を「話すこと」や「書くこと」に生かした単元を構成することが、「言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力」の育成に有効であることが確かめられた。また、本研究は、教材文の読み取りに止まるものではなく、教材文で身に付けた読みの力を他教科や日常生活にも生かしていくことをねらいとしている。このような読みの力を身に付けることが確かな学力の礎となる。

今後は、これまでの研究によって得られた成果と課題を全職員で共有し、今後の実践に生かしていきたい。